



NEWS はるのすがたりおはなし会

4月29日(土)はるのすがたりおはなし会が18名のお客さまをおむかえしてしりつ図書館2階でおこなわれました。すがたりとは、絵本などを使わないで、ものがたりを語ることで、心にその世界が広がります。今回の演目は『小山うさぎ』『こぶたのバーナービー』などでした。(第5土曜日は素語りおはなし会です→7月29日(土)3じ~あります。)



★しとしは 8月6日(日)に3年ぶり 夏のお話し会があります!
おしらせ どうぞおたのしみに!
 7月22日(土)~8月27日(日)
なつのはほんまつり
 おすすめのえほん展示・そのほかイベントたくさん!

鶴岡市立図書館
 TEL. 0235(25)2525
 QRにピッタリアクセス



としはかんカレンダー

6月

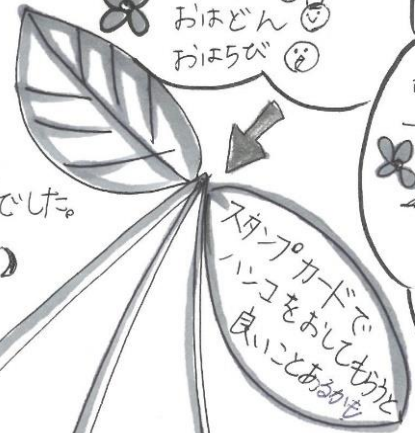
日	月	火	水	木	金	土
(休)	休館日			1	2	3 3じ
4	5 (休)	6	7 4じ	8	9	10 3じ
11 (休)	12 (休)	13	14 4じ	15	16	17 3じ
18	19 (休)	20	21 4じ	22	23	24 3じ
25	26 (休)	27	28 4じ	29	30	

開館時間
 毎週月曜日 休館日
(休日のときは翌火曜日)
 平日 9:30-19:00
 土日祝日 9:30-17:00

おはすい
 おはどん
 おはちび

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7 3じ
8	9	10 (休)	11	12 4じ	13	14 3じ
15	16	17	18 4じ	19	20	21 3じ
22	23	24	25 4じ	26	27	28 3じ
29	30	31 (休)				



館内おはなし会

おはすい
 えほんおみかせなど
 毎週水曜日
 16:00~
 大きい子向け

おはどん
 えほんおみかせなど
 毎週土曜日
 15:00~
 全年齢

おはちび
 第4水曜日
 第2日曜日
 11:00~
 の1さい向け

おはなしポケットメンバー募集!

おはなしポケットは鶴岡市立図書館のよみかせボランティアです。
 ・館内おはなし会・絵本の研修、
 ・おおいおはなし会などの活動します
 どうぞお気軽に図書館にお問い合わせ下さい。



図書館には「やまびこ号」という移動図書館車があって、市内各地を回っております。その中には、小学校や保育園も含まれています。また、施設見学で図書館にやってくる小学生もいますので、子どもとかかわる機会は、多いのですが、その時に子どもたちからよく言われるのは、「こわい本ありませんか？」という言葉です。

そこから私の悩みが始まります。つまり、「怖って、どのレベル？」「あなたは、何が怖い？まんじゅうじゃないよね。」という悩みです。

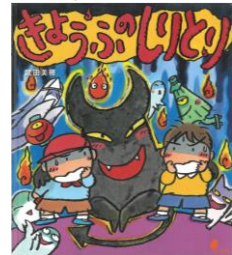
そこで、今回紹介する絵本は、そんな私の目にとまった絵本二冊。一冊目は『ついてくる』（小川育作 教育画劇 2021年刊）です。これは、見学に来た小学生に読みました。結果は、怖いのは嫌だと言って、目をつぶっている二人を除いて、おおむね好評。怖くないじゃん。と言いながらも、ワイワイ。最後の落ちから、「え〜。」となったので、最初の場面をもう一度みせると、子どもたちの鋭い目線は、絵の中の伏線を発見していました。内容は、見てのお楽しみということにします。

二冊目は、『きょうふのしりとり』（武田美穂作 ほるぷ出版 2019年刊）です。男の子が二人で「しりとり」を始めます。今回は「こわいもの」で「しりとり」。初めは、「ようかい」の「い」。最初は順調にいくのですが、そのうちに再びの「い」に困った男の子は、「いぬ・・・のようかい!」。ここから、「〇〇のようかい」が続いてしまうのですが、大人の私は、間に「の」が入ったら、ダメなんじゃないの？と突っ込みたくなりますが、二人は続行。でも、しばらくして「ようかい」は禁止にします。再び順調に怖いものが続いていきますが、また、次の言葉に困ってしまった男の子が奥の手を出します。「めがっぱいのおばけ!」。それでも、「しりとり」が続いていきます。もう！子どもの怖いものって、おもしろ〜い。と言う、おはなし。怖い本ではないですね。

でも、実は図書館の子どもの本にも「怖い本」はあります。妖怪やお化けのお話。怪談や遠野物語、学校の怪談。大人の小説家が書いた絵本まで。怖さの種類もレベルもいろいろ。本棚の中に隠れていますので、探してみてくださいね。



「ついてくる」 小川育作 2021年刊 教育画劇
「きょうふのしりとり」 武田美穂作 2019年刊 ほるぷ出版



ポケットの穴 からこぼれた話

絵本には絵とことばがたくさん詰まっています。そして、それらのごとばには心に残るものが少なくありません。今回は、私が、「くまのコールテンくん」という絵本で出会ったことばを紹介します。

コールテンくんは、小さなくまのぬいぐるみです。デパートのおもちゃ売り場で自分を選んでくれるお客さんを心待ちにしているのですが、誰も足を止めてくれません。フリズボンのボタンがとれていて、とても新品には見えなかったからです。心ざびしい思いをします。

そんなある日、リサという女の子が貯金を使って、コールテンくんを家に連れ帰ってくれました。リサの部屋にはコールテンくん用の小さなベッドまで用意してありました。そして、とれたズボンのボタンも新しくつけてくれました。心から歓迎してくれたリサの気持ちに、コールテンくんは嬉しさいっぱいです。

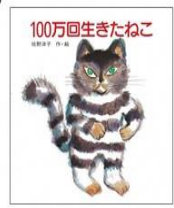


そしてリサに言うのです。「友だちって、きっときみのようなひとのことだね。」「ぼく、ずっとまえから、ともだちがほしいなっておもってたんだ」。リサは「あたしもよ!」と言ってコールテンくんを抱きしめてくれました。

私は、コールテンくんのこのことばを声に出して読んだとき、高校入学時の不安で一杯だった私が、親友と言えぬ人に出会えたときの嬉しかった気持ちが思い出され、コールテンくんの気持ちがよく理解できる思いがしました。

絵本を通して心に残る言葉と出会えた時は本当に嬉しいものです。これも絵本の魅力の一つだと思います。

*作品 「くまのコールテンくん」 ドン=フリーマン さく 借成社

ポケットメンバーのおすすめ作家を紹介
佐野洋子 (1938-2010) 北京生まれ
絵本 児童文学 エッセイ 脚本 小説 海外絵本の翻訳などで活躍

絵本	エッセイ・対談集
<p>『100万回生きたねこ』（講談社 1977）</p> <p>これはひょっとすると大人のための絵本かもしれない。真に大人の絵本ならば、子どももまた楽しむことができる。それが絵本というものの本質をとらえている。 (週刊朝日書評より)</p> 	<p>『ヨーコさんの“言葉”』</p> <p>(北村裕花絵 講談社 2015)</p> <p>NHK Eテレで放送された同タイトルの5分番組を書籍化。オールカラーのイラストエッセイ集、シリーズ全5巻。</p> 
<p>『こんにちは あかぎつね!』</p> <p>(エリック・カール 借成社 1999)</p> <p>色の補色の原理をベースにふしぎな話が展開し、鮮やかな色と大胆なデザインの絵が、読者をふしぎな色彩の世界へ誘います。この作品で日本絵本賞翻訳絵本賞を受賞。絵本の翻訳は他にも多数。</p> 	<p>『ほんとのこと言えば? 佐野洋子対談集』</p> <p>(河出書房新社 2013)</p> <p>明石家さんま、阿川佐和子など著名人との対談集。当時夫だった谷川俊太郎とは子供時代・絵本・恋愛について話している。</p> <p>彼女の言葉は小さな悩みなど、吹き飛ばしてくれるパワーをくれる</p> 